



559人が参加した平成21年の植樹祭

全国森林ボランティア探訪 Vol.27

日本山岳会 『高尾の森づくりの会』

日本山岳会「高尾の森づくりの会」は社団法人日本山岳会の自然保護委員が中心となって発足した団体で、数ある森林ボランティアの中でも、トップクラスの活動を展開しています。発足して今年で九年目ですが、個人会員二二〇人、法人会員二四社（平成二二年八月現在）にのぼり、高尾の森だけでなく、三宅島の復旧植林活動、白神山地でブナ林の再生事業、親子森林体験スクールや安全講習会の開催など広範な活動を行っています。

東京神奈川森林管理署と協定を結ぶ

高尾の森づくり活動は、二〇〇一年一月、日本山岳会会長と東京神奈川森林管理署長との間で「小下沢風景林の森づくり活動」を行う協定が結ばれたことによりスタートしました。「多様で豊かな森林」への回帰をコンセプトに「巨樹の国ニッポンのモデルとなる森」を目指して森づくりを進めています。

「高尾の森づくり活動」では、目標とする森林のすがたを、一〇年後、五〇年後それぞれについて数値目標を定め、この目標に基

づき森林整備五カ年計画や作業指針等を作成しています。

五〇年後の数値目標である森林の姿を協定締結前の二〇〇〇年と比較すると、

- スギ、ヒノキ単層林の割合を八〇%から四一%に下げ、広葉樹林と複層林の占める割合を二〇%から五九%に引き上げる。

- 林齢は上層木で六〇年生以上をほとんどとし、下層には幅広い林齢の広葉樹林を生育分布させる。
- 一〇〇年生以上の森林が三割に達し、スギ、ヒノキの高齢木に広葉樹が混じる巨樹の森の様相を呈



親子森林体験スクール

とされています。

このような目標に基づいた森づくり活動は、現在、第二期森林整備五カ年計画（二〇〇六～二〇一〇年度）を通じて進められ



次期五ヶ年計画の検討会

ており、希少動植物の保全・再生が出来る環境となるよう、広葉樹と針葉樹の混じり合った多様な林相の森林に仕立てる作業を続けています。

第一期五ヶ年計画の実績は、植栽五・七畝、植栽本数七、五八〇本、間伐九・二畝、延べ参加者七、四二二人でした。第二期五ヶ年計画では、植栽四・八畝、植栽本数七、五〇〇本、間伐二〇・〇畝、延べ参加者七、〇〇〇人（二〇一〇年の見込みを含む）を予定しております、現在、二〇一一年度からの五ヶ年計画について検討が進められています。

このような「高尾の森づくり活動」が行われているフィールドは、東京神奈川森林管理署が管理する八王子市裏高尾町の高尾小下沢国有林で、百七十八畝におよぶ広大なエリアです。

作業班と専門班を編成

会員数が増えたことから、作業の安全性と効率性を高めるため、作業班と専門班とに区分しており、このうち専門班は、ものづく

り班、生育調査班、苗木育成班、枝打ち作業体験班、動力機械班、森の研修班、安全・救急班など九班に分かれ、それぞれの目的に沿って活動しています。

本年度の親子森林体験スクールには、二〇組四八名が参加しました。カリキュラムは「植樹体験」と「人と森林の関わり」で、地球や人類の歴史、光合成や環境問題などを学習しています。また、植樹体験は、安全な作業を最も重視しています。高尾山は急傾斜のうえに瓦礫が多いため、地ごしらえ



三宅島の復旧植林に参加した会員

では落石を防ぐよう枝葉を利用した防止柵を設置するなどの工夫を行っています。参加した人たちは「貴重な体験ができた」「自然の大切さがわかった」「親子で参加できてよかった」「次回も参加したい」といった感想が寄せられています。

日本山岳会「高尾の森づくりの会」

代表：河西瑛一郎氏

2001年1月 設立

会員数個人会員230人、団体会員14社

年齢は50歳～60歳代

住所：〒332-0031

川口市青木1-21-7-402電話／FAX：048-254-2852